

令和5年度第3回 くらし部会 議事録

日時：令和6年2月9日(金) 14:00~15:30 場所：中種子町中央公民館

参加：20名

書類の訂正 出席者名簿の西之表市民生委員・児童委員協議会⇒南種子町に訂正
ねいろ 24 GH管理者の横林さん欠席

1. 開会のあいさつ 松岡拓郎氏

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。いくつか議題がありますが、皆様のご意見を聞かせてもらえたらなと思います。

2. 協議内容

議題(1)各市町の地域生活支援拠点の面的整備の状況

- (西之表市) 現時点で、こすも、あかつき、たちばな、緊急時の受け入れとグループホームの体験の契約を結んでいる。体制は整えている。面的整備の拠点としての部分で、コーディネーターの部分は相談支援事業所の相談員がコーディネーター的な役割を果たしているのが実情で、市から委託はしていない為、未整備になる。福祉計画の策定にも記載もあり、整備をすすめていく予定。
- (中種子町) 地域生活支援拠点の目的は、高齢化、重度化に伴い在宅の親なき後を見据えて居住支援のための機能、相談体制、緊急時の受け入れ、体験の機会、専門的人材の確保、地域の体制づくりをするため。事業所との契約で緊急時の受け入れ等の体制はできている。緊急時がないと受け入れられない、現在の所受け入れはない。災害とは別。親と同居している方が、サービスを利用していけば、福祉課職員も面識があり、親なき後の聞き取りや状況の把握ができる。どこにも相談していない、自分たちで解決しないといけないと考えている方もいて、親の高齢化と共に保護者に考えてもらわないといけないと思う。面的整備は整っている。
- (南種子町) 行政内では話し合いが行われているが、コーディネーター等まだ未配置となっている。

質問)中種子町整備されているとの事だが、コーディネーターの名前を教えて欲しい

- (中種子町) 地域生活拠点の5つの項目の中の相談体制の中に、コーディネーター配置がある。整備されていると言うことで県には報告しているが、相談は役場で受ける、コーディネーターを設置し定期的に巡回等に行っていない。

議題(2)在宅(独居)障害者の支援の現状と課題抽出 地域資源の情報収集

- 事務局 資料を読み上げる。

(議長) 事業所、民生委員で対応しているが、通院、買い物、ゴミ捨て、車がないとできない事、サポートがないとできない事がある。独居、高齢の親との同居、ゆくゆくは課題を抱えていく可能性がある方の把握は、各地域の中で解決していく事も課題が多い。個人情報保護法があり、行政から障害のある方の情報を伝えることができない。行政に相談があれば事業所や相談に繋ぐ事ができる。民生委員の方も、そういった方がいたら、行政に繋いで相談があれば福祉に繋がる事もできるかと思う。

(中種子町) 個人情報がある関係で、障害者手帳を持っている等情報は持っているが、こちからは言えない。近所の方、親戚から相談があれば動きやすい。最終的には公助。一番大事なのは自助・共助・公助の順で、本人、親兄弟、近所の人、福祉サービス、NPO 法人えん(電球の交換、話し相手、買い物支援等)サービスがある。最終的には行政に行きつくと思うが、こういったサービスがあると言うことを、地域の人やここに集まった人が、宅配弁当や金銭簡易等利用できる資源の情報を知っ

て、相談があった時に紹介できるように、知ってもらうことはとてもありがたい。障害福祉も担当は1名しかなくて、民生委員や地域の人たちが情報を知っていて適切にアドバイスできる事が一番いい。ちなみに中種子町の包括支援センターに地域の情報を集めた『お助けマップ』冊子があった。地域の中小さな商店の紹介やタクシーの乗り方、バスの時刻表等事細かく書いてある。中種子町野間の情報だと、集まれる場所としてコアストリートっていうのがあるよと紹介されている。基本的には高齢者向けの内容であるが、同じような各地域の情報は包括が持っているのでぜひ情報として持つておくといいと思う。

(民生委員)引きこもりも含めて、障害者の方が地域にいても、把握しづらい。訪問して安否確認できたとしても、関りを持つ事は難しい。困った事がないか聞いて、役場に繋ぐのは私たちの仕事であるが、心配だなと思っても、それ以上立ち入れない。皆さん民生委員は地域の情報をわかっているとされるが、見守りの対象だと言うことはわかっている、それ以上の情報はあまりもっていない。各地区担当がきまっていて、その情報は持っているが共有していないので他の所の事はわからない、情報が集まりにくい事をご理解いただきたい。

地域の中で見たときにこの人は障害者、この人は支援を受けているとわからない人はいっぱいいる。そういった中で、緊急時に対応してくださいと言われても対応できない。個人情報保護法があつて難しいとは思いますが、緊急時にこの人は障害を持ってここに住んでいます。この人もそうなの？という人が出てくる。行政の情報と私たちの見守りの中での情報のすり合わせが、どこかでできないかと考える。そうしないと、いざという時に「あの人は障害者です」と、そうは見えないから支援が届かない場合が出てくる。行政と下で活動していく私たちとの共有やすり合わせの場が欲しい。

(西之表市)災害時については今後、各市町とも個別避難計画を作成することになる。障害者、高齢者、避難に支援が必要な人を見つけて、どう支援して避難するかの計画をたてる際、本人の同意をもらってから作成になる。その同意は、集落町や民生委員に情報を伝えてもいいか？という事も含まれている。災害が起こった際は、その情報は消防等に共有してもいい形になるが、避難訓練は共有できない。ここ数年で個別避難計画は進んでいくと思う。

(議長)個人情報の問題はいいのか悪いのか、いろんな問題があると思うが、福祉のネットワークと繋がっている人は、すでに声をあげている方だと思う。困った時、緊急時にこういう方がいたんだ…という人は声をあげない方が多いのではないかな。だから、地域の方、民生委員の方、親戚の方も知らなかったという事になるのではないかなと思う。福祉のネットワークを広げ、小さなきっかけから支援に繋がればと思う。この場にいる方からでも、共通の意識を持っていければと思う

- (議長)種子島の社会資源(資料)の紹介、あかつきの宅配弁当、猫の手サービスはとてもいいと思う。社会資源を組み合わせる事で地域で支える事が可能になっていくのではないかな？

(事務局)アンケート資料の⑦の中に、社会福祉協議会の『思いやりネットワーク』があるが説明をお願いしたい。

(社協)生活困窮者への支援で、生活保護が支給されるまでの間、現物支給による支援を行う事ができる(1世帯10万まで現金支給ではない)

議題(3)グループホームのサビ管との意見交換会(報告)

- (事務局) 資料を読み上げる。
- (議長)どこの事業所でも課題は同じで、自由と規制をする所のバランスが難しい所、

できれば自由に思うように生活して欲しいと思うが、その弊害もありさらなる問題がでてくる現状だと思う。全国的に人手不足、拍車をかけるように馬毛島への働き手の流出が起こっている。なんとか乗り越えていければと思う。

議題(4)ピアサポーターの活動について(報告)

- (ナカポツ)在職者交流会を開催している。種子島と屋久島でピアサポーター養成講座を修了した方が各1名ずついて、その方招きリカバリーストーリーを語ってもらった。今回の交流会は就労 A 型、B 型を利用しながら一般就労して目指している方が参加していた。いい気づきが得られた様子だった。ピアサポーターの活躍の場がなく、精神科デイケアや退院支援等での活用を促せたらと思う。また、活躍してもらう為のピアサポート体制加算の事務処理が煩雑なので、簡略化して欲しいと要望が熊毛圏域の連絡協議会でも出ていた
(議長)一人でも多くの長期入院患者が退院に向けての希望になるように、いろんな所で話をする機会があればと思う。加算の所は簡略化できれば活用に繋がると思う。

議題(5)障害者の性の支援について(報告)

- (事務局) 資料を読み上げる。
(議長)障害者の性については、ないものとして扱われてきた。ないと押さえつけられてきた時代から変わって、あるものとして支援の方法も変わってきている。性の課題、ジェンダーや LGBT 等多様性の時代と感じる。性のミーティングに参加したが特別支援学校の取り組みや若い助産師さんの熱心な取り組みを知り、福祉が繋がって協力をもらえたらと思う。

その他

- 種子島地区自立支援協議会のホームページが立ち上がりました。
『種子島地区自立支援協議会』と検索すれば一番上に出てくると思う。
内容も充実しており、各種会議の内容や、グループホームの空き情報も掲載している。活用や閲覧はまだまだなので活用を呼びかけたい。
(せいざん)退院支援の際、ホームページは活用している。各事業所のパンフレットがプリントアウトして渡せるのがすごくいい。掲載されていない事業所もあるので、アップして欲しい。

閉会